



世界に希望を生み出そう

Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

- ◆点鐘：長澤 裕二 会長 ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
- ◆司会：新藤 幸紀 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



第3011回例会 令和6年4月15日(月)

会長あいさつ

長澤 裕二 会長



今日は2つお話しします。1つは来週の例会。今年度2回目の映画例会です。今回はほんとに超A級、どの劇場でもやっている映画です。前回は、山形県内ではフォーラムでしかやらないような映画です。今回は山形県内全部の映画館でやっています。米沢も山形市も

天童も、ほんとに全部の映画館でやっています。前回の例会は、1カ所ですべて山形県の全部からお客さんを集めてなんとか成り立つというような程度の映画でした。今回はどこでもやっていて、すごく大ヒットしています。アカデミー賞の主要部門を一番多く7部門とって、作品賞というのが一番偉い賞ですね。その次が監督賞。主演男優賞、助演男優賞、あと作曲賞とかそういうもので7部門とっている作品です。ただ3時間なんです。体力に自信のある方はぜひ頑張って挑戦していただければと思います。

もう1つは蔵王例会の話です。6月15日に決まりました。私も去年、下調べで1回登って植えたのですが、それで初めてわかりました。蔵王にはクマザサが生い茂っていて根っこが地下15センチくらいまで張っているんです。そういう所にアオモリトドマツの苗を植えるのですから、どういうふうに育つかということに気を使ってやらないと育ちません。ぜひそれは体験してもらいたい。移動例会でほしい90人くらい集まっています。お昼まで、半日の仕事になります。移動例会はほしい参加率が落ちます。西クラブ100人いるとはいっても、なんとかその半分の50人に参加していただけないかなと。自分の体験としてアオモリトドマツを植えるというのはどういうことなのかということを知ってほしい。1本植えてみたらどんなものか、自分たちの事業の重さというのを実感できるのではないかなと思うんです。だからぜひそれを体験してほしいということです。山登りではないです。ロープウェイで登ります。大変なのは、根っこや土を掘ったりすることはありません。それは若い人が頑張りますので、ぜひ人数を集めるということで、体力に自信のない人でもぜひ参加していただきたいです。2週間前に委員会の人が1回登って準備をして、それでお待ちしますので、ぜひご参加いただきたいと思います。よろしくお願いします。

幹事報告

三沢 大介 幹事

- 新会員のご紹介をさせていただきます。新会員であります、株式会社金萬代表取締役社長の酒井啓史さんです。よろしくお願いします。
- 4月のロータリーレートは151円です。

新入会員のあいさつ



酒井 啓史 さん

[株式会社金萬]

山形西ロータリークラブは、長年にわたり地域社会への奉仕活動や会員相互の親交を通じて、山形の発展に大きく貢献されたと伺っております。このすばらしい活動に参加し、自身の成長と地域への貢献ができることを大変光栄に思っております。私の亡き父も長年にわたり皆さま方にお世話になり、西ロータリークラブの時間をいつも楽しみにしていた人でした。

先輩会員の皆さまには、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

委員会報告

親睦・家族委員会

会員8名、奥様が10名、4月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

広報雑誌委員会

皆さまのお手元に配布されている4月号の『ロータリーの友』14ページの「ロータリー俳壇」のコーナーに夏井いつき先生が選出した俳句として、当クラブの戸田会員の作品が選ばれております。「日当たりて わたむし制御不能なり」誠にありがとうございます。

社会奉仕委員会

皆様にご連絡が2点ほどございます。まず1点目ですが、3月27日に村山産業高校のほうに会長、幹事等々で伺ってまいりました。今回の地区補助金の関係で、アオモリトドマツへの活動をされている学校が村山産業高校さんで、そちらのほうに「アースオーガー」という穴掘り機械と発電機、そういったドリル関係のものを寄贈しに伺って、無事寄贈させていただきました。

もう1点、アオモリトドマツの植樹・種まき例会が6月15日に行われます。その2週間前の6月1日土曜日に、我々委員会メンバーと若手の方を中心にお手伝いをいただきたいということで、一本釣りでも申し訳ないのですが、お声がけさせていただきますので、お声がけされた方はぜひご協力いただければと思います。ちょっと笹刈りが大変な状況なので、そのあたりのお手伝いをよろしくお願いします。当日は山形森林管理署の方と、村山産業高校の生徒さんも、移動例会の日もそうですし、6月1日も協力したいということで申し出がございましたので、一緒に活動していただくというような形になっていますので、よろしくお願いいたします。

職業交流委員会

春の球風会が5月12日に山形ゴルフカントリーで行われます。申し込みが4月26日締切となっております。皆さまの多くのご参加よろしくをお願いいたします。

ごあいさつ



小関 眞一 さん

〔山形北ロータリークラブ 会長〕

2023年度会長を拝命いたしました小関でございます。諸般の事情によりまして新年度2024年の7月1日からメトロポリタンに例会場を移動することになりました。思い起こせば1968年に山形ロータリーさんと山形西ロータリーさんをスポンサーとして北クラブが生まれて、一番最初は産業会館が例会場でした。そのあとオーヌマホテルさん。2007年の4月1日からこのグランドホテルになり、来年度からこのようなことになりました。会場は変わっても奉仕の気持ちは変わりませんので、ひとつ今後ともよろしくお願ひ申し上げ、山形西ロータリークラブさんの益々のご隆盛、そして会員様のご多幸をご祈念申し上げます、引越しのご挨拶といたします。ありがとうございました。

伊藤 誠 さん

〔山形北ロータリークラブ 幹事〕

本年度2023年度の幹事を務めさせてもらっています伊藤誠と申します。西ロータリークラブさんには長年同じ会場でお世話になりまして、大変ありがとうございました。また会場が変わっても今後とも変わらぬお付き合いをどうぞよろしくお願いいたします。

ニコニコBOX

〈4月15日〉

長澤裕二会長／満開の観桜会

先週4月8日、奥様方を含めて78名で観桜会が満開の桜に恵まれて亀松閣で開かれました。昨夜霞城公園に行きましたが、桜はまだ残っていました。今年の桜は長持ちです。

山形北ロータリークラブ小関眞一さん／山形北ロータリー引越しのご挨拶

2024年7月から例会会場が変わるので引越しの挨拶に来ました。今後ともよろしくお願ひします。

山形北ロータリークラブ伊藤誠さん／山形北ロータリークラブ例会場変更のご挨拶

今年7月から例会場がホテルメトロポリタン山形に変更になります。長年当会場を利用させていただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

三沢大介さん／観桜会

4月8日、吉田ガバナー補佐、奥様15名を含む総勢78名による観桜会。しっかり桜も満開し、とても楽しく過ごさせていただき、ありがとうございました。親睦・家族委員会の皆さま、お疲れさまでした。

鈴木隆一さん／森先生を歓迎して

森美千子先生の今後の益々のご活躍を祈念してニコニコします。

長谷川浩二さん／ようこそ

高校部活野球部OB会の同じメンバー。この時節には特にご多用のご視察、拝察。併せて私たちクラブにお越しいただき多謝です。お話を楽しみとこれからの一層のご健勝を祈念します。

長谷川浩一郎さん／森先生を歓迎して

森先生、この度の校長ご就任、誠におめでとうでございます。そして大変ご多用の中、当クラブの例会卓話講師をおつとめいただき、感謝申し上げます。

戸田正宏さん／1. 『ロータリーの友』4月号にまたまた小生の句が載りました。『日当たりて わたむし制御不能なり』冬に作った俳句です。鑑賞いただければありがたいです。2. 本日入会した、ばんだいの酒井啓史さん、歓迎します。

菅原茂秋さん／新入会員を歓迎して。ようこそ酒井さん。

そして息子が社会人1年生

酒井さんの入会を歓迎します。これから仲良くよろしくお願ひします。また私の息子が今年おかげさまで社会人デビューをすることができました。今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。

伊藤義彦さん／うれしいことがありました

次男が母校の東京医大の教授になりました。

市村清勝さん／パストラボ山形ワイヴァンズ、プレーオフ進出決定

皆さんの応援のおかげで、ワイヴァンズのプレーオフ進出が決まりました。これからB1昇格に向けてプレーオフを戦い抜きますので、さらなるご支援をよろしくお願ひします。

親睦・家族委員会の皆さま／観桜会の御礼

4月8日の観桜会に多くの皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。委員会一同、心より感謝申し上げます。



地域連携を担う「探究活動」

森 美千子 さん

〔山形県立新庄南高等学校 校長〕

ただ今ご紹介に預かりました、新庄南高校で校長をこの春から勤めさせていただいています、森美千子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は山形東高校を昭和63年に卒業し、大学に進んだあと、高校教員を目指していきまして、山形東高校は定時制でも勤めたことがありますし、霞城学園を作るために通信制にも一旦赴任をして、霞城学園を作ってきたところで、新採が村山農業高校でした。そのあと山形県教育センターに勤めたあとに、平成24年から母校の山形東高校の全日制に普通に教諭として赴任したところでした。

しばらく年月が経ちまして、私は、担任をしたいなー、私一生担任でいいな一思っていたのですが、山形東高校の普通科に、探究科ができるという、そういった県の施策が来まして、それを回す教育企画課というところがあるのですが、その課長をしろというふうに急に来まして、

「ええっ？」と思いながら、そこを仰せつかって、この協働というところがあるのですけれど、国の事業の「地域との協働による高等学校教育改革の推進事業」というのがありまして、手を挙げて国からお金をもらいながら、地域連携をしていくという仕事をしていました。そしたら、そのまま教頭になりまして、8年間の教諭のあと、今度は教頭2人体制になって、地域連携とか探究活動がボリューム的に大きくなったので、そのまま教頭にいて、この間まで4年間も教頭として置いていただいて、地域の皆さまからご協力をいただいていたところです。

その時、一般財団法人三菱みらい育成財団というところから助成を受けるなどしていたのですが、今年度までなのですが、新庄南高校の校長として赴任をするということになって、残念ながら泣く泣く、12年いた山形東高校を離れてしまいました。

山形東高校は今年140周年を迎える伝統校でして、昔ながらの文武両道、質実剛健、自学自習をモットーとした学校でして、本当に先生方の授業力というところに寄ったすごい進学校でした。校歌にあるように「国家の運命をしくは負はむ」と言われるように、地域や国や世界で活躍する人材を2万人以上輩出しているような伝統校です。

ただ、その伝統校でありながら、実際置かれている、結局は教育改革をどうしてしないといけないかというところは皆さんも十分ご存じのところなのですが、やはり予測不能な変化が激しい、そういった社会情勢があって、私が教頭になった時も、ちょうどコロナ禍でして、もう学校が止まるんじゃないかと思うような、そんな予測不能な状況にありました。しかも山形県ですけれども、若者の流出に伴って、人口減少、それから少子高齢化というところで、地域課題が本当に深刻化している状況で、これを後回しにできない、高校生といえども知らないではいけないというような状況が来ていました。

さらにその中で、やはり社会課題をその地域だけに寄ることなく、国やそれから世界と手を結びながら、グローバルに活躍するような、そういった人材も必要だということ、それも東高校にも求められていたところです。

高校現場では私たちは共通テスト、センター試験が長

らくあったのですが、共通テストになって、思考型、思考力、判断力、それからちゃんとした統計に基づいた根拠に基づいた学力なんていうところで、高大接続改革や新しい指導要領で求められる力というものが全く変わってきました。ですので、今までの知識詰め込み型というのではなくて、やはり得られた知識を社会で活かせるような、そういった人材育成というものが高校にも求められてきましたので、これはもう教育改革課題だったところでもあります。

平成30年に探究科が設置されて、普通科6クラスのうち2クラスを探究科にして、探究科に関しては国際探究科と理数探究科に分かれるという感じですね。そういったことでカリキュラムを作ってきたところです。

私がすごくその時に力を入れていたのが、先生方の研修でした。先生方はとにかく先進校を見たいとか、うまくいっているところを見たいとか、こういう勉強をしたい、探究活動の授業ってどうなの？というような新しいことを学びたいといったとき、国の事業とか財団の事業とかのお金をいただきながら、先生方が行きたいというところはすべて行ってもらいたいと思って、私はすごく研修に力を入れていました。

国の事業をやる時にやはり先生方でいいたいという人材をどういうふうに育成していくかというのをやった時に、その時、やはり社会課題とか地域課題は学校の教員は全くわからないんです。世の中のことが全く分からないので、地域の専門家の方々に来ていただいて、お話を聞いて教えていただいてということで、やはり地域と連携しながらやるべきだということで、先生方と一緒に目線合わせをして始めていったのが最初でした。

私たち、「探究」と言っているのですが、総合的な探究の時間という時間が1単位ずつ3年間で3単位以上取らないといけなくなって、必修科目なんですね。探究活動が必修なんですけれども、それを山東探究塾と呼びまして、それを1年から2年、3年とスキルアップしていく形になっているところです。例えば県の観光物産協会の代表さんに来ていただいたりとか、山形市役所の方に来ていただいたりとか、あるいはグローバルに活躍している海外にいらっしゃる方に来ていただき、1年生で徹底的にやって、しかも山東といえども地域の企業を知らないといけないということで、たくさんお世話になっておりますけれども、企業訪問もさせていただいて、そこから皆さんの活躍というのを生徒に教えていただくということをしているのが1年生です。

2年生になる時に自分のテーマを決めて、山東生240人がそれぞれ考えるのですが、地域振興であるとか、暮らし改善であるとか、防災減災だ、ものづくりだ、あとはやはり人文系とか。学問の分野に深く入っていく子もいますし、最近は地学もあって12分野くらいになるのですが、1人1テーマの子もいますし、3つくらい掛け持ちしている子もいますし、そういったことで100を超えるテーマが一堂にそろって、探究活動をしているところです。ただ、これはもう全然学校の教員では及びません、外部の連携協力体制というのを、国の事業の時に組ませていただいて、連携協力機関としては、山形市役所さんはじめ、経済同友会さん、それから県の観光物産協会さん、JICA東北の山形デスクさん、あと連携協定を結んでいるのは、東北芸工大とそれから山形大学、あとは山形県立産業技術短期大学の先生方に来ていただいたりということで、ここがたくさん増えているところです。その連携の担当と私がやり取りをして、生徒の探究活動に協力いただいているということなのですが、いま高校生が一気に、県内どこの高校生もやり始めたので、いろんな機関さんがすごく忙しくなっているということで、この山東出身とか山東に

関わってくださった方を、サポーターズクラブという個人で支援してくださる方も募って、いま個人的に広がっていて、そこが今100人近くいるのですけれども、そういった方々にもご協力していただいているところです。

基本的には生徒が自分の課題ですので、独自にアポを取ってつながってくるケースもたくさんありまして、これだけではすまないのですが、基本的には学校が把握している方をお願いをするという、窓口になっていたのが教頭になっています。

今までの経緯のところなのですが、実は急に探究活動がうまくいったわけではありませんで、探究科ができるようになったときに、とりあえずちょっと試しにやってみようということで、山東探究塾のプレみたいなので40人くらいずつ3年間ちょっとやってみたんですね。それで必要だなと思ったところに学校としては動いてくるのですが、そして、とにかく生徒たちのほうが先にアポを取って、勝手に連携をして勝手に動くようになっていて、最初の子たちを追いかけるのが大変でした。なので、芸工大さんとか、それから市役所さんとか、県の観光物産協会さんとかJICAさんとかは、生徒のほうが先につながってきて、あとで「すいません、お願いします」というように後追いをしているところがあります。学校としてお願いしつつも、個別にも生徒たちがつながってきて、電話をして行ったりして、それでお願いしたところがあります。あとは先生方を全国に研修に行かせているので、そこでつながってきた方に来ていただいたりとか。

4番目のところで、山東探究塾の取り組み内容に関わる中で、協力してくださったケースとかがあって、経済同友会さんとかもぜひということでお話いただいたり、そういったところが生徒たちの探究を見ながら、ぜひ協力してくださるということで、いろんな企業さんとか団体さんが声をかけてくださるので、本当にありがたいなと思っているところです。

ただ連携するときは、やっぱり生徒たちは高校生ですので、そういったところなるべく高校生の本分を離れない、授業中に探究活動をするわけにはいきませんし、それから基本、1年間で終わるので、ボランティアのように次の年次の年と、お祭りの動員みたいにはちょっとなれないので、そここのところは申し訳ないと言いながらお互いのメリットを確認したりしています。あとは、これはすごく言うのですけれど、生徒の問題で生徒の活動なので、大人がやってあげないこと。いろいろ協力はしてもらっても、実際は生徒たちだよというふうに、やっぱり人材を育てるときはそのとおりだと思うのですけれど、大人がやってあげない。だから教員とかもほんとに冷たいように見られるかもしれないのですが、じっとがまんして手を出さずに声だけ掛けるというような、そういった伴走のような役割をお願いしているところはあります。ほんとにこれまで5年間まるまるやってきて、すごい数の探究をしてきて、たくさんの企業さんからも地域の方々からもご協力いただいて、楽しくやっていったと思うのですけれども、ありがたかったなというふうには思っています。

探究型学習、わからないことがあると友だちのところへ聞きに行ったりとか、一緒に解いたりとか、自分たちの習熟度に合わせて、話したくなって学んだことを話とか、そういったこともしたりします。あとは大学の研修なんかでも模擬講義とってやってみたりとか、あとは東大生とか

遠い生徒たちと今オンラインで繋がれるようになったので国を越えてとか地域を越えてオンライン懇談会をしたりということもやっています。ネットヨタの社長さんからご協力いただいてイベントをしてみたり、あと天童産のアーモンドでお菓子屋さんが作っていただいたのを道の駅で売らせていただいたり、パパア州との姉妹県州の所をつないでイベントをオンラインでやってみたりしています。

最近では山響さんがすごくがんばっていらっしゃるけれども、生徒たちが公式のアンバサダーというか公認の宣伝マンになって、あちこちで、インスタグラムで発表しています。次々と生徒たちが協力者を求めて、それで形を作って、そして活動してというのが毎年生まれているところです。

これも当初のところではハッカですかね、天童の高嶺ハッカを山形ハッカとして全県に知らしめるなんていうことで、シンガポールでも発表してきたりして、いま天童のほうは盛り上がり「高嶺ハッカ」というのをブランド化しているところなんですね。

シンガポールもですが、英語発表もしています。国際探究科の子たちは発表して、今年やっと行けました。実際に行くと、英語のプレゼンテーションをして、ものすごい「シングリッシュ」に苦労するのですけれど、しゃべれるのですが聞き取れないというすごい大変な思いをしながら、生徒たちはようやく海外研修も行けるようになっていったところです。

生徒たちの資質・能力というところの部分では、「ほんとにこの課題がほんとなの?」とか「データちゃんと間違っていない?」とかすごく言ってもらえるのですけれども、ちゃんとエビデンスをもって正しい知識、正しい情報の下で発想したりとか、あるいは市役所さんからもすごく言われるのですけれど、1つの課題はこの課で解決するのではなくていろんな課が横断するという横断型の力が必要だとよく言われるのですが、学習も今そのとおりで、そういった力もついたり、あとは上手にすきま時間を使ったりとか、マネジメントする力も出てきたり。あるいはコミュニケーション能力や、表現力とか、自分の考えをきっちり正しく言えるようになったりとか、そういった力が付いてきたなと思っています。

何よりもやっぱり進路実現というのが山東はすごく大きかったので、そここのところでも最初からこの学校、この先生、ここでこういう学びをするとか、将来自分はこのようになるみたいなのがすごく言えるような生徒が増えてきて、第一希望が決まったらチャレンジする。前期もだめなら後期もチャレンジするとか、あるいは発想を変えてしなやかにほかで学べるところを探したりとか、そういったことで自己マネジメントというか、そういったチャレンジ力みたいなものが付いたなと思っています。

山形東高校にいたときにはその地域連携というところで、私たちが受ける恩恵ばかりで、ほんとにありがたかったのですけれども、もし連携していただけるような場面があったら、もちろん企業さんとか地域の方々のWINも考えてちゃんと話しなさいとは伝えているところがありますので、お互いにWIN-WINになって長続きするように、持続可能なのが一番だと思うので、そんなふうになればいいなというふうには思っているところです。

もし何かお聞きになりたいことがありましたら、ぜひご質問いただければと思います。ありがとうございます。

本日出席 (4 / 15)	会員総数	出席会員数
	100名	55名